

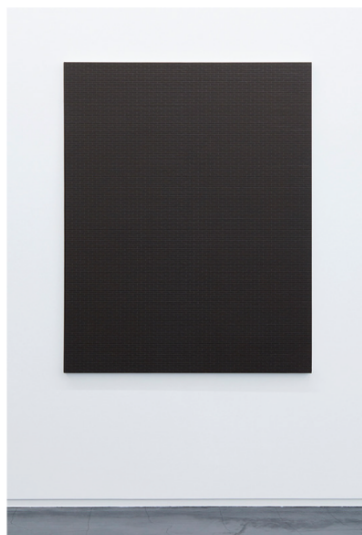
報道関係者各位

ブスイ・アジョウ、マリア・タニグチのアジアの「いま」をあらわす絵画、
安西剛のインスタレーション、Proof of X の NFT とアートの可能性を示す展示など
「art stage OSAKA 2023」 出展作家第 2 弾を発表

一般社団法人 アート東京（代表理事 来住尚彦）が主催するグランキューブ大阪を舞台に開催するアートイベント「art stage OSAKA 2023」＜2023年9月1日（金）～3日（日）（8日31日（木）は招待日）＞。この度、出展アーティスト第2弾を発表いたします。本イベントは「アジア」「現代美術」「New Media」の異なる3つの視点からひとつの未来社会を見つめる展示構成で、40名以上の現代アーティストの作品が出展します（一部を除き展示作品は購入可能）。



〔タイ〕
Busui Ajaw, *Modern mother*, 2019 Acrylic on canvas
©Busui Ajaw
Courtesy of nca | nichido contemporary art



〔フィリピン〕
Maria Taniguchi, *Untitled*, 2019
Acrylic on canvas
Courtesy of Taka Ishii Gallery



〔マレーシア〕
Fadilah Karim, *Too Big to Handle 2*, 2022
Courtesy of Gajah Gallery

■ヴァラエティに富んだアジア地域 10 カ国の「いま」をあらわす絵画

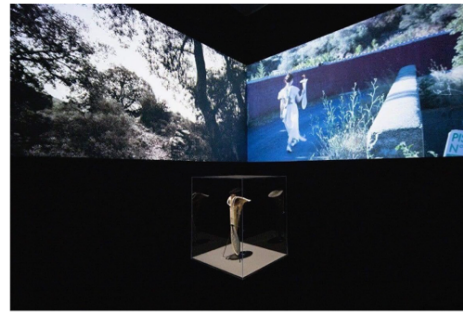
【Paintings Now Redux – アジアの「いま」をめぐる】をテーマにした国際展「World Art Osaka」。タイ・チェンライ出身で遊牧少数民族（アカ族）の職人の家に生まれたブスイ・アジョウは、文字のないアカ族の文化や歴史、伝説、風習の伝達方法であった口承文学を引用して視覚化し、自身の生活環境を織り交ぜながら絵画や彫刻で表現しています。今回出展するシリーズでは、彼女の表現テーマの中心であるアカ族の物語を、女性、また母としての視点から再考しています。フィリピンを代表する芸術家の一人であるマリア・タニグチは、2008年より継続してブリック・ペインティングと呼ばれる絵画作品『Untitled』シリーズを制作してきました。レンガ壁としての絵画を成立させることで、平面作品がある種の物質的現実として、絵画でも建造物でもない、あるいはその両方である何かとして立ち現れています。将来が囑望されているマレーシア作家ファディラ・カリムは、近年、自分の人生そのものを題材としています。娘を得て、母となった彼女は、若い少女に特有のアンビバレンツな様子―混乱の中の美しさ、恐怖に直面した喜び―を描き、親子の生活の中で起こりうるささやかな出来事が、絵画表現を通して、極めて深い普遍性に到達していると言えます。

出展作家：ブスイ・アジョウ（タイ）、コラクリット・アルナーノンチャイ（タイ）、
ティン・リン（ミャンマー）、マハラクシュミ・カンナパン（シンガポール）、
ファディラ・カリム（マレーシア）、ホンサー・コッスワン（ラオス）、
コア・ファム（ベトナム）、ロジト・ムルヤディ（インドネシア）、
ソピアップ・ピッチ（カンボジア）、ルチカ・ウェイソン・シン（インド）、
マリア・タニグチ（フィリピン）（アルファベット順）





安西剛『Unsettled』2021-
メディアム：日用品、モーター、9V電池、テーブル、結束バンド、他



Shino Yanai『Blue Passages, The Deep End version』2020
Photo IINUMA Tamami

■非合理性によって新たな価値を創造する日本・アジアの精神性を持つ作品

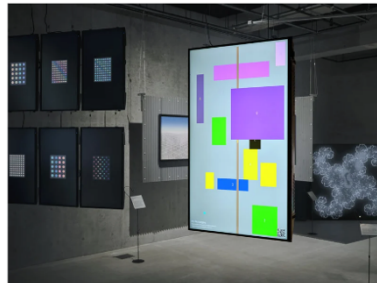
【すべてが計算される世界でまだ祈るべきものは残されているのか？】この問いを中心に、日本の現代美術の作品を4つの角度から読み解く「Japanese Contemporary」。安西剛の『Unsettled』は、大量に生産され消費されるプラスチック製の日用品とモーターを組み合わせて作られた、キネティック・スカルプチャー／動く彫刻によるインスタレーション作品です。不合理でどこにもない運動を執拗に繰り返す彫刻たちが並走し、時に干渉しあい、破壊され、遠く離れ、または組み合わせ、形状や運動の予測をもとに組み立てられたコンポジションは、絶えず変化し即興的なアンサンブルを奏でます。そこでは、見慣れた日用品が、従来の意味や、目的と手段から切り離された異なるパースペクティブに置かれ、モノとして他者との新たな関係を探求し続けるパフォーマーのように存在しています。

Shino Yanai が、東京五輪 2020 に先駆けて制作した『Blue Passage』では、神でも国家でもないものに捧げる祈りとしての芸術が探求されています。本作は、ナチス・ドイツに追われビレナー山脈で自決した 20 世紀を代表する哲学者のひとりヴァルター・ベンヤミンの足跡を、たったひとり聖火を持って辿り直すパフォーマンスの記録映像です。トーチは、ベンヤミンの遺作「パサージュ論」を燃やすことで聖火が灯されました。太陽光ではなく、書物によって点火された「聖火」は、言葉を通して個人から個人へ受け渡される「思想」の隠喩とも解釈できるでしょう。最後には、白い小舟が炎に包まれて燃え上がり、作家もまた海へ消えていきます。炎が象徴するベンヤミンの思想は、登頂から海底へ運び去られ、壮大な自然へと還ります。ここでは、聖火は、神々でも国家でもなく、ただひとりの個人が、歴史に翻弄され不遇の死を遂げたひとりの思想家を追悼するための鎮魂の炎として捧げられているのです。

出展作家：雨宮庸介、安西剛、EUGENE STUDIO、潘逸舟、加茂昂、KYOTO INTERCHANGE [金氏徹平／田中功起]、落合陽一、たかくらかずき、Shino Yanai ほか（アルファベット順）



exonemo『Proof of Non-Existence』



Kitasenju Design『64 Rectangles』



NIINOMI『Connected Windows』

■アートとテクノロジーの交錯がもたらす新たな表現の最先端

【State of the "Art"】をテーマに、コミュニティと熱狂を共有する NFT 作品や、実在するアート作品のデジタルアーカイブ、ブロックチェーン技術を利用した作品などのデジタルコンテンツを展示する「New Media」。2023 年 6 月、代官山の展示にて大きな反響を呼んだ「Proof of X」より、NFT、スマートコントラクトを中心としたブロックチェーン技術をアートの新たなメディアムとして捉えた国内外のアーティストの作品を紹介します。ニューヨークを拠点に活動するアートユニット exonemo の『Proof of Non-Existence』は、Solidity のスマートコントラクトとして有効な文法を用いたコントラクトを、シルクスクリーンで Mint（印刷）することにより、ブロックチェーン上の「非存在の証明」として扱い、ブロックチェーンの存在によって生み出されたオフチェーン作品（つまり「普通の作品」）です。リアルタイム CG の領域で新しい視覚表現の実験と実装を行う北千住デザインは、自律性を持ったシステムの介在をジェネラティブアートの鍵と捉え、コンピューテーションや乱数、そしてアーティストの意思に代わり、ミンターの人力によってひとつのジェネラティブアートを作る『64 Rectangles』を展示します。また、「System as an Art」をテーマに作品を制作する NIINOMI の『Connected Windows』は、ANIMA と呼ばれるデジタル世界の生き物が、コレクション内で生成された NFT のウィンドウ間を行き来し、所有者同士が ANIMA を共有すること、つまり「NFT のコレクションを介して形成される繋がり」をテーマにしています。

【FAT Collection】相場慎吾、古塔つみ、潤 inoue、上根拓馬、松嶺貴幸、MIRAI、坂本拓也、

エレン・シェイドリン、田島享央己 ほか

【Proof of X】0xDEAFBEEF、0xG、Akihiro Kato、Ara、EXCALIBUR、exonemo、Kitasenju Design、Masaki Fujihata、NIINOMI、PIV、Rhea Myers、Toshi

【NFT X CREW】A-Mashiro、草野絵美、高尾俊介、mae、安田現象、Y__D、Waboku、愛☆まどんな（XYZA）、コムロタカヒロ（XYZA）、森洋史（XYZA） ほか

開催概要

名 称 : art stage OSAKA 2023
日 程 : 2023年9月1日(金) 10:00-17:00
 9月2日(土) 10:00-17:00
 9月3日(日) 10:00-16:00
 ※8月31日(木)は、関係者向けの特別内覧会
会 場 : グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51
主 催 : 一般社団法人アート東京、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
後 援 : 内閣府、外務省(後援名義)、経済産業省、観光庁
 アフガニスタン・イスラム共和国大使館、アンゴラ共和国大使館、ベルギー大使館、
 駐日ベナン共和国大使館、ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館、駐日ブルガリア共和国大使館、
 ブルキナファソ大使館、在日本国カンボジア王国大使館、在大阪中華人民共和国領事館、
 コロンビア共和国大使館、駐日コスタリカ大使館、駐日クロアチア共和国大使館、
 キューバ共和国大使館、デンマーク王国大使館、ジブチ共和国大使館、ドミニカ共和国大使館、
 エクアドル共和国大使館、エルサルバドル共和国大使館、エチオピア連邦民主共和国大使館、
 在日ジョージア大使館、駐日ギリシャ大使館、グアテマラ共和国大使館、
 ホンジュラス共和国大使館、ハンガリー大使館/リスト・ハンガリー文化センター、
 アイスランド大使館、インドネシア共和国大使館、
 イラン・イスラム共和国大使館文化部(イラン文化センター)、イラク共和国大使館、
 アイルランド大使館、イタリア大使館、ヨルダン・ハシェミット王国大使館、キルギス共和国大使館、
 ラオス人民民主共和国大使館、レソト王国大使館、駐日リトアニア共和国大使館、
 駐日マダガスカル共和国大使館、マリ共和国大使館、在日メキシコ大使館、
 在日モルドバ共和国大使館、駐日ネパール大使館、
 北マケドニア共和国大使館、駐日パナマ共和国大使館、パラグアイ共和国大使館、
 駐日フィリピン共和国大使館、ポルトガル大使館、在日ルーマニア大使館、サモア独立国大使館、
 サンマリノ共和国大使館、シンガポール共和国大使館、スロヴァキア大使館、
 スロヴェニア共和国大使館、スペイン大使館、スーダン共和国大使館、在日スイス大使館、
 シリア・アラブ共和国大使館、トーゴ共和国大使館、トンガ王国大使館、
 チュニジア共和国大使館、在日ウクライナ大使館、駐日ウズベキスタン共和国大使館、
 ベネズエラ・ボリバル共和国大使館
 大阪府、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、和歌山県
 公益財団法人 大阪観光局
協 賛 : 東京建物 | BrilliA、大阪芸術大学
協 力 : 株式会社 大丸松坂屋百貨店、MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社、SAKE HUNDRED、
 株式会社イロコデザインジャパン、株式会社アイ・オー・データ機器
オフィシャルパートナーホテル: W 大阪
特別協力美術館: 国立国際美術館、上方浮世絵館、絹谷幸二 天空美術館、和泉市久保惣記念美術館、正木美術館
制 作 : ユニバーサルアドネットワーク株式会社
U R L : <https://artstageosaka.com/>
チケット料金: 前売 ¥2,000/当日 ¥2,500 /NFT 暗号通貨: 20 MATIC クレジットカード: ¥2,000
販 売 サ イ ト : <https://artstageosaka.com/blank-4/art-stage-osaka-2023>
NFT(暗号通貨): <https://opensea.io/collection/aso-ticket-by-fat-collection>
NFT(クレジットカード): <https://fat-collection.com/1370/ee508e70-c40b-4766-861b-7f71821999e4>

art stage OSAKA 2023 は「令和5年度日本博2.0事業(委託型)」です。



©Expo 2025

【パートナーイベント】

一般社団法人 アート東京は、世界遺産・二条城を舞台に開催するアートフェア「artKYOTO 2023」を開催します。2025年に開催される大阪・関西万博に向け「art stage OSAKA 2023」「artKYOTO 2023」2つのアートイベントを同時期に開催し、大阪・関西を拠点に国内外の人々にアートの魅力を発信していきます。



名 称：artKYOTO 2023
日 程：2023年10月6日（金）・8日（日）・9日（月・祝）
※5日（木）および、7日（土）は、関係者向けの特別内覧会
※東南隅櫓および、番所は招待日も一般入場可能
会 場：世界遺産・二条城（元離宮二条城 二の丸御殿台所・御清所 東南隅櫓 番所）
〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町 541
主 催：artKYOTO_2023 実行委員会
U R L：<https://artkyoto.jp/>
チケット料金：前売 ¥2,000／当日 ¥2,500
※別途二条城への入城料が必要。
※16時以降は入城料不要。ただし、artKYOTO 2023 会場以外は進入不可。
※小学生以下は、大人同伴に限り artKYOTO 2023 への入場無料。
販売サイト：<https://artkyoto.jp/blank-4/artkyoto-2023>